

東京拘置所による獄殺を断じて許すな！

同志北條千秀虐殺 18九年弾劾-報復！

全国反戦青年委員会・全日本学生自治会総連合（伍代委員長）

東京都杉並区下高井戸 1-34-9 03-3329-0165/0168 <http://zengakuren.info>

本年1月をもって東京拘置所による同志・北條千秀虐殺より18年が経過する。かけがえのない同志の虐殺に対する反戦と全学連の怒りは、さらに強く燃え上がっている。東拘をはじめ虐殺に加担した弾圧機関に必ずや報復することをあらためて宣言する。

安倍連合政府の改憲・戦争—ファシズム攻撃のもと、三里塚・沖縄をはじめとした労働者人民の闘いに対する弾圧をてことした破壊攻撃が激化している。これにともにやり返していこう。監獄、警察、検察などの治安・弾圧機関を怒りの闘いで幾重にも包囲し解体しよう。

●監獄・裁判所一体の千秀同志虐殺を断じて許すな！

98年5月26日、北條千秀同志は、反共ファシスト宗団＝「明大ゴスペル」による襲撃を受け、その後高井戸署により逮捕された。肋骨骨折の重傷を負わされながらも逮捕後は完全黙秘・非転向で闘った。東京拘置所移管後は、ファシストと権力・明大当局が一体となった反革命弾圧に怒りを燃やし粉碎する決意をたぎらせていた。

東拘や東京地裁は千秀同志のこれまで闘いや、90年天皇Xデー決戦当時に爆取でっちあげ弾圧によって東拘に捕らわれていた北條秀輝同志の長期獄中闘争を支援してきた闘いを憎悪し、千秀同志に攻撃を集中してきた。当時の裁判長中山隆夫は、初公判で「人定」に黙秘で挑む被告団と千秀同志に対し、「黙秘を続けていると大変なことになりますよ」と報復感情をあらわにし、直後に獄外との「物の授受禁止」を加えるなど、接見禁止攻撃を強め徹底して獄外との分断をおこなってきた。

千秀同志は、拘禁のなかで発症した不眠や過換気症などの諸症状と格闘しながら獄中闘争を闘い

続けていた。しかし、発症に目をつけた東拘当局は、同志を医療とは名ばかりの薬漬けの状態にした。98年12月10日には、「薬が効かない、おかしい」と抗議する千秀同志を「保護房」へ叩き込んだ。必要な医療を要求する同志を暴力的に「保護房」に叩き込んだのである。そして還房後、懲罰審査を通告した。

このさなかに「12月14日朝に自殺を図った」と報道がされた。入浴日で看守がひんぱんに房の前を通っている中である。東拘当局は事態発生後、形だけの応急処置をただけで長時間にわたって同志を拘置所内に放置し、救命救急医療がおこなえる病院に搬送したのは発見後4時間後であった。そしてその間二度に渡って、北條秀輝同志を意識不明状態の千秀同志に会わせた。目的は千秀同志を秀輝同志の目前で虐殺すること、非転向で闘う秀輝同志への獄殺恫喝—転向強要である。東拘当局はまさしく意識的に千秀同志を虐殺したのだ。虐殺の下手人—東拘当局を断じて許さない。

●右翼・ファシストと手打ちし、同志虐殺を容認した木元グループを解体・根絶しよう！

木元グループの頭目・山田茂樹は「明大ゴスペル」を指導する韓国の国家情報院のスパイと親交

したあげく、襲撃や警察との連携を免罪した。そして権力、ファシスト宗団に屈服しファシスト弾

効・階級裁判粉碎を掲げて闘う被告団はじめ、非妥協で闘う仲間への排撃をおこなった。千秀同志虐殺に対しては監獄に対する自らの恐怖感を吐き出しながら「東拘はやることはやった」「千秀同志が限界だった」と吹聴して回り真相究明一報復戦の破壊を策動した。

反戦と全学連は東拘当局による同志虐殺を許したうえ、山田による千秀同志本人の「思想問題」へのすりかえとも十分に対決できなかった。当時の獄中一獄外貫く団結と闘いの限界性を見据えこれを突破する闘いを生み出せなかったことが木元グループ発生の一因にもなっている。この点にお

いて自らの団結と闘いの内容こそが厳しく問われている。

ファシスト宗団から「お友達」とまで言われた木元グループは、闘う隊列からの脱落・逃亡以降は文字通り権力・資本の手先として明大生協労働者の全員解雇や、階級闘争を先頭で闘っていた5人の同志の虐殺を強行し、正真正銘の反革命集団へと転落した。

反戦と全学連は、こうした木元グループを生み出した根拠を徹底的に検証し克服し、そして生み出した責任において必ずや木元グループを解体・根絶する。

●死刑執行弾劾！「保護房」解体！ 治安弾圧強化-「共謀罪」新設を阻止しよう！

去る11月10日、国家一法務省と福岡拘置所は、一昨年12月に続き二例目となる裁判員裁判にもとづく死刑を執行した。労働者人民を裁判員と称して動員し、国家による人民虐殺の片棒を担がせることを断じて許すことはできない。

戦争突撃と改憲一天皇(制)攻撃を許さない闘いがまきおこるなか、政府は躍起になって治安弾圧を加速させている。今国会では「共謀罪」を名称がえした「テロ等準備罪」の新設を狙っている。実行行為なしに権力機関の恣意で弾圧をおこなうための「共謀罪」新設を許すことはできない。

国家権力がむき出しの暴力をもって闘いのうね

りをねじ伏せようとするとき、そのテコとなっているのが監獄の中の監獄-「保護房」だ。「保護房」は2000年の名古屋刑務所獄中者虐殺をはじめ、獄中者への暴行や拷問、獄殺の強力な道具となっている。「保護」と称して千秀同志やあらゆる「病者」・獄中者を叩き込み死に追い込んできた、紛れもない虐殺房だ。安倍政府は「世界一安全な日本」政策と称して、留置場の「保護房」を増設している。「保護房」収容の件数は東日本大震災の時期から格段に増えている。闘う獄中者、そして「保安処分」と闘う「病者」と連帯し、監獄や精神病院、すべての収容施設にある「保護房」を撤廃しよう。

●弾圧をはね返し監獄解体-獄中者解放をかちとろう！

監獄は闘う者に屈服・転向、さもなければ死を強制するための暴力装置だ。そして一人の同志への攻撃は、その同志が共にする団結への攻撃でもある。反戦と全学連は“一人の獄中暴行・拷問・「保護房」叩き込みも許さない”原則を鮮明にし闘う。

何より監獄は徹底した差別・分断、拷問・虐殺を日々執行し国家の支配を維持・拡大するために存在する。それを解体・廃絶するのは戦争突撃と治安弾圧に突き進む政府・国家権力と闘う階級闘争・革命闘争の第一の課題だ。反戦と全学連は千

秀同志虐殺を許した痛恨の自己批判と総括をもって、いかなる弾圧にも屈しない闘う団結を形成する。権力と真正面から闘わず、弾圧との対決を制動・妨害する勢力を踏みしだき、反彈圧の強大なうねりをともに作りあげよう。獄中一獄外貫いて警察・検察・裁判所、そして監獄、一切の弾圧機関を解体する闘いを押しすすめよう。

北條千秀同志虐殺18ヶ年徹底弾劾一報復！死刑執行を許すな！「保護房」撤廃！監獄解体一獄中者解放を掲げ全国の監獄に向け進撃しよう。

決戦の三里塚闘争に結集しよう！

1・30 耕作権裁判・デモ

場所 千葉市葭川公園 9時集合/10時30分～弁論(千葉地裁601号法廷)